

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 1月 15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000104		
法人名	株式会社プラティア		
事業所名	グループホームプラティアひょうたん山		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府東大阪市新池島町1-1-5		
自己評価作成日	平成 26年 1月 20日	評価結果市町村受理日	平成26年6月20日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市松風町2-5-107
訪問調査日	平成26年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営方針である①ご入居様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行予防 ⑤地域社会と共に、独り1人柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者様が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また日々の外出で買物・店・自宅・行き慣れた馴染みの場所等にも行っている。地域との交流の取り組みを重視し、自治会行事への参加、他のホームにも行っている。人員は人員基準以上の人数で個別ケアに対応できる体制を取っていて、利用者様中心の生活環境・スタイルでケアに努め、利用者本位のケアを常に心がけ実践していった。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関、共用空間は落ち着いた木調の佇まいである。桜並木が見渡せる採光のよい明るく清潔な環境の中で利用者はゆったりと過ごされている。自治会活動への参加の誘いも増え、地域行事へも利用者が参加しやすい配慮により参加する機会が増え、地域との交流が深まるように取り組んでいる。管理者、職員は記録を充実させることで利用者一人ひとりの状況や希望や要望を把握しその人にあった個別ケアが浸透できるように取り組んでいる。気候、天気の良い日には、周辺の散歩や買い物に利用者の希望や体調に合わせて出かけ、日々楽しめるようにしている。喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、季節に応じた花見・ふれあい祭り・夏祭りなど外出や遠出ができるように支援している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>詰所に基本理念を掲示し、常に意識する事を心がけ、出勤時も確認している。また全体会議でも唱和している。</p>	<p>利用者を中心とし尊厳を大切にされた支援を行うことで理念・運営方針の実現に取り組んでいる。新入職者研修には、管理者より理念・運営方針について説明を行う他、法人代表者からも研修の機会に細かく説明を行い、理解と浸透が深まるように取り組んでいる。利用者の体調や希望に応じて、利用者一人ひとりのその日の暮らしを支援している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>自治会と夏・秋・春祭りや地域の行事にも誘われることがあり、積極的に参加したり、桜並木道などもあり散歩中地域住民からお声を掛けて頂いている。</p>	<p>自治会活動への参加の誘いも増え、季節の地域の祭りだけでなく、地域行事へも利用者が参加しやすい配慮により参加する機会が増えている。桜の並木道の清掃活動には、利用者の状態や希望に応じて職員と共に参加し地域での役割を持って生活できるように努めている。地域のボランティアの受け入れを行い、地域との交流が深まるように取り組んでいる。</p>	

3	<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方に相談を受けた場合認知症の人との関わりの中で積み重ねてきた知識を解りやすくアドバイスしている。</p>		
4	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の方、家族様と積極的に意見交換を行い、意見やアドバイスをサービス・指摘頂いた事を受け入れて質の向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議は年6回利用者・家族・自治会長・地域包括支援センター職員の出席の基に定期的に開催している。運営報告、利用者状況報告、各フロア報告やプラティアとして取り組んでいる「寄り添い介護」の実施・活動状況についても報告して、参加メンバーからの意見や提案を、運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。</p>	<p>会議でより多くの意見や提案を出してもらい運営やサービスに反映させるために、知見を有する方の出席の検討が望まれる。</p>
5	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の交流会・勉強会にも参加や役所と種類などのことも交え積極的に連絡し、意見などを取り入れている。</p>	<p>市の地域密着型サービスの交流会やグループホーム連絡会の開催の案内があれば必ず出席をし、連携が図り易いように努めている。法人代表者が市の地域密着型グループホーム連絡会の座長を務めていることから、行政との連携は密に取られている。市の実地指導では、書類の整備が整っており、良い評価を受けている。事業所内で課題や問題があれば窓口相談を行い、速やかに課題や問題が解決できるように連絡・連携を図っている。</p>	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>社内・外部研修を行い身体拘束の知識を深め職員は常に介助方法の話合い、身体拘束をしない取り組みをしている。</p>	<p>年間の研修計画の中に拘束をしないケアについて学ぶ機会を持ち理解と浸透を図っている。法人全体で統一されている「プラティア禁止事項」として拘束をしないケアを実践することを謳い、拘束をしないケアの提供を行っている。また、身体拘束委員会で年間の目標を立て、拘束をしないケアの徹底を全職員で目標を持って取り組んでいる。利用開始時には、拘束をしないケアの提供を行っていることを説明を行っており、家族に理解と協力を得て、日々利用者の尊厳を大切にケアの提供を行っている。拘束をしないケアの提供での転倒事故などのリスクを含め契約時より説明を行っている。利用者の安全を確保しながら、自由な暮らしを支えるためにヒヤリハットを日々報告書で提出し、毎月のミーティングの機会に件数・内容を報告し全職員でリスクを把握し、抑圧感のない自由な暮らしの支援に活かしている。</p>	<p>定期的な研修の実施で理解と浸透を深める取り組みを継続していくことが望ましい。また、研修に参加できない職員に対しての理解と浸透を深めるための取り組みについても実施することが望まれる。</p>
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所不在での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>社内・外部研修を行い虐待防止の知識を深め職員は常に介助方法の話合い、身体拘束をしない取り組みをしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>既に後見人制度を活用しており、関係者と日々の相談・話し合いの場を設けている。</p>		

9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族様に十分な説明時間を取り、重要事項説明書、利用契約書を解りやすく丁寧に伝え疑問等にも返答して納得して頂いている</p>		
10 6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置と苦情窓口も設置しており家族様が来所した際には、常に意見を聞き対応している。</p>	<p>意見箱を設置しているが書面ではいることはないが、直接職員や管理者に意見や要望を訴えられることが多い。家族が面会で来訪時には、職員から声かけを行い、意見や要望を言いやすいように配慮している。また、意見や要望の訴えが無い場合でも職員からの声かけや話しをする際に、意見や要望・苦情を出してもらえるように話をしている。2カ月に1回、担当職員が利用者の日々の生活の様子を家族に書面で報告し、生活の様子を把握してもらった上で意見や要望を出すことができるようにしている。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>会議の場だけではなく常日頃から職員とコミュニケーションを取り意見を伝えやすい雰囲気作りをして反映している。</p>	<p>全体会議、ユニット会議、カンファレンスの機会には、職員から意見や提案を聞く機会を持っている。事業所全体の運営やサービスに対しての意見や提案は全体会議で話し合い反映させている。ユニット会議ではユニットの中での運営やサービスに対する意見や提案が出され、話し合いを行い反映させている。会議やカンファレンス終了前には必ず職員からの意見や提案を聴取するようにしている。エリア統括マネージャーや管理者が計画的に面談を行い、職員からの相談を受けるだけでなく日々の業務の振り返り、意見や提案の聴取を行っている。エリアマネージャーの面談では職員のストレスケアも含めて実施し、職員の適正や資質の向上を図ることができるように取り組んでいる。人事移動については面談で得られた職員一人ひとりの状況を踏まえて、利用者との馴染みの関係について十分に考慮した上で行えるように配慮されている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>現場の仕事に常に目を向け、指導や相談にのり評価される人事考課表を実施し、モチベーションの向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の職員研修、階層別の研修を計画的に実施したり、管理者も研修参加や他の事業所の職員と交流している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他の事業所と年数回交流の場を設けお互いの意見交換の場を作りケアの質向上に取り組んでいる。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時の段階で本人様の不安・ニーズを聞き取って安心出来るように助言しサービスの提供を行い良い関係づくりに努めている。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談時の段階で家族様の困っていること不安・ニーズをお聞きして安心出来るように助言しサービスの提供を行い良い関係づくりに努めている。</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当ホームでのケアの仕方を家族様の理解を得た上で行き、その時に応じて他のサービスにも転化できるように説明もし対応している。</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>独り1人の力に応じて作業を一緒に行う事で馴染みの関係作りをしている。</p>	
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様にも出来る限り協力して頂き共に本人様を支える関係をきづいている。</p>	

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なじみの場所の情報収集行い、入居者・家族様側からのご要望にあわせ外出援助を行っており馴染みの場所へ職員と一緒に 行っている。</p>	<p>地域で暮らしてきた利用者の方で馴染みの人の来訪が継続的にあり、職員も一緒に馴染みの人との交流を持っている。利用開始後にできた事業所周辺の地域の方との交流もあり、利用者の希望に応じて外出等を行い地域との関係が継続できるようにしている。「寄り添い介護」を活かして、個別・少人数の馴染みの場所への外出・旅行が実現できるように取り組んでいる。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様が、孤立されている場合は、職員が間に入りコミュニケーションを取り仲を取り持ち支えあえるように心がけています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所されてもいつでも相談や近況を知らせていただけるように努めてる。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のコミュニケーションや関わりの中から把握した思いや意向を生活の中で実現できるように取り組んでいる。</p>	<p>全職員で研修を持ち、日々の関わりの中から利用者の何気ない言葉や動き・表情を利用者一人ひとりの思いや意向・希望であると捉え、詳細に把握し支援に活かすように取り組んでいる。職員は生活のさまざまな場面を活かして、生活の中での思いや意向・希望を聞き出すように努めている。利用開始時に本人・家族・関係者から利用者のこれまでの生活状況や希望や思いを聞き取りで把握するようにしている。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前の面談や入居後の会話や家族様などから情報収集して反映していている。</p>	
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員が入居者様との会話や生活スタイルを観察した中から、個々に合わせたケアに努めている。</p>	

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人様の状態を把握しながら家族様や職員間から意見を聞きニーズをまとめ介護計画を作成している。</p>	<p>行動実施表で毎日実施状況をチェック・確認し毎月各ケア項目（援助目標）に応じて評価・今後の方針を記載している。日々の生活の状況や様子、利用者の話しや他の利用者との関わりなど介護日誌に詳細に時間を追って記載されている。夜間も巡回を2時間毎に行い、巡回時に観察した利用者の様子を詳細に記載している。介護日誌に記載された内容は管理者が確認を行い記載の内容について利用者の様子・観察が記録として残され、情報共有が十分にできるようになっている。毎月のモニタリング・評価は、毎月のカンファレンスで見直しの必要性確認している。見直しの必要性が無い場合でも6カ月に1回は見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録の記入を行い常に職員間で情報を共有し、問題あれば見直しやカンファレンスをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>生活歴、家族等から参考や管理者からアドバイスし、個々にあった生活を提供し日々臨機応変に対応に取り組んでる。</p>		

29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自己決定を尊重し、スーパーへの買い物、近隣の昔から行きつけの店への息抜きや思い出の場所など、地域の資源を利用させていただいています。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホームの協力医療機関とかかりつけ医院などにかかる場合も医師から情報提供書を記入して頂き、いつでも受けられるようにしている。</p>	<p>協力医療機関はあるが、利用者や家族が希望する医療を受けられるように支援している。入院が必要な場合には、協力医療機関と連携を図り、適切な医療を速やかに受けられるように支援している。近隣の内科医師と看護師の往診が週に2回あり、必要時には訪問看護の訪問も受けられる。往診の結果は、緊急性を要しない場合には、面会で来訪時に伝えるようにしているが、緊急を要する場合には、電話で速やかに家族に報告し適切な支援を速やかにできるようにしている。皮膚科・眼科などへの通院には職員が同行する。主治医が紹介状を書き、同行した職員が口頭で状態を説明し、受診結果は職員から報告を受け、家族にも報告している。定期的な健康診断も協力医療機関が行なっている。</p>	
31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>24時間連携しており往診日には事前に管理日誌に入居者様に気になることを記入し、的確に指示を頂いている。</p>		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>日々日頃から連携病院相談員等と連携し入退院した場合もまめに連絡し相談につとめている。</p>	/	/
33 12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の時点で終末期・重度化する前の方針を説明し家族様からの理解を得て他の事業所とも連携体制を取っている。</p>	<p>看取りまで行う方針で取り組んでおり、研修会を実施し職員で共通認識を持ち、統一した支援を行うことができるよう取り組んでいる。「医療対応指針」（重度化対応、終末期ケアについて）策定しており、契約時より指針を説明し理解を得るようにしている。重度化・終末期の段階に応じて家族・医療関係者と話し合いを繰り返し、利用者・家族の希望に沿った支援を行っている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時・事故の対応は入職時の研修でも行い、日々忘れないようにマニュアルと表を作成し張り出しもしており全職員が把握している。</p>	/	/
35 13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練の実地と自治会との非難応援を確保の体制にしている。</p>	<p>年2回消防訓練を実施しており、避難誘導訓練を消防署の来訪を受け行っている。自治会で作成された地震マップを基に自治会から災害時の協力体制・連携を図る体制整備ができています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>内部研修で個人情報の大切さと日々の業務の中で重要性を指導している。</p>	<p>事業所内での勉強会で利用者の個人情報保護やプライバシー保護について学び、理解を深める取り組みを行っている。利用者とは日々関わる中で職員個々で利用者の尊厳やプライバシーに配慮した支援を行うように努めると共に、その場その場で注意を促すように指導・助言を行い周知徹底を図っている。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々のコミュニケーションの中で本人様の意向を聞き聞けない人からは家族様にお聞きして最大限引き出せるように取り組んでいる。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>会社の理念でもあり入社時日々の業務の中でも伝え毎月の会議で理念の意味を理解して入居者様本位に取り組んでる。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入居者様の自己決定を尊重し職員見守りながら身だしなみに気をつけている。</p>	

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>日々の食事の工夫もしているのと、毎週月曜日自由メニューで入居者様の意向を聞き、料理のお手伝いも出来るところまでして頂いている。</p>	<p>法人全体で食材の搬入を受けている。食材の搬入業者の管理栄養士が作成した献立で、各ユニットで調理を行っている。利用者が気持ち良く食事をゆっくり楽しんで食べることができるようテーブルの配置やテーブルを囲むメンバーに配慮を行っている。インフルエンザやノロウィルスが流行している時期には、事業所から外食を控えているが、その他は食べる楽しみが持てるように外食を楽しむ機会を持っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分表の把握し栄養が偏らないようにバランスを考えたメニューにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎週金曜日に歯科往診も行い、日々の口腔ケアのアドバイスを歯科医から指導を受けて口腔ケアに努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>入居者様の排泄スタイルの把握し、会議等で話し合い出来る限り自己で排泄出継続出来るよ過剰介護にならないように統一している。</p>	<p>排泄のチェックを行い、排泄のパターンや排泄用具の使用で利用者一人ひとりに応じた自立に向けた排泄支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>医師・看護師と連携を取り自己にて自然排便出来るように適度の運動も取り入れたり水分不足にならないように把握している。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一部出来ているが、血圧の関係や外出などで希望があわないことがあるが、入浴でリラックスし楽しむ雰囲気は組んで支援している。</p>	<p>利用者の希望に応じて入浴が楽しめるように支援に努めている。利用者のプライバシーや羞恥心に配慮し安全に入浴ができるように見守り・声かけの工夫を行い支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前の面談で日頃の生活習慣をお聞きしてホームに入られても継続できるように対応している</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤師から日頃から指導アドバイスも受け変更なれば報告あり、説明もあり職員間で連絡事項で理解している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活歴や趣味など家族・本人様からお聞きし、第一に本人様の意向を踏まえて寄り添って支援しています。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>本人様の意向を十分配慮して職員が付き添いにて遠方に行ったりと積極的に外出支援をほぼ毎日出来る取り組んでいる。</p>	<p>気候、天気の良い日には、周辺の散歩や買い物に利用者の希望や体調に合わせて出かけ、日々楽しめるようにしている。喫茶店にお茶を飲みに出かけたり、季節に応じた花見・ふれあい祭り・夏祭りなど外出や遠出ができるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分で管理出来る人はお金を持って頂いており、金銭管理が不十分な人は、家族様と相談させて頂き、少しで手もとにあると安心される人は少額の現金を持って頂いています</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居時に説明させて頂き、携帯電話を持たれたり、手紙と一緒に郵便局に出しにいたり生活面に取り入れる。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペースは空間広く、窓から光が差し込み季節に応じて室温調節の管理行っており、解放感のある空間で、窓からはホームから桜並木が一面に見える窓の設計にして工夫をこらしている。</p>	<p>玄関、共用空間は落ち着いた木調の佇まいである。採光のよい明るく清潔な環境の中で利用者はゆったりと過ごされている。壁面は手作り感・季節感のある装飾品、写真などが飾られている。所々にソファや椅子を配置し、思い思いの場所で寛げるように配慮されている。</p>	

53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブルやソファ・椅子等を設置自由に過ごして頂ける場を設け、日当たりのいい場所を提供している。</p>	/	/
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人・家族様が自宅で使用していた愛着ある家具類、テレビ、仏壇等を入居時に持ち込んで頂き、心地の良い住環境を作り必要に応じて工夫をこらしている。</p>	<p>利用開始時に利用者・家族の意向を聞き、使い慣れた家具や道具などを持ち込み今までの生活とギャップがないように配慮し、その人らしい居室作りに努めている。畳の使用をしている方や各ユニットで仏壇の持ち込みをしている方など、利用者の望む生活が出来るように配慮されている。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様独り一人の機能を理解しその人の能力に応じて安全面も拝領して支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	<p>職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない</p>
57	<p>利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある</p>	<p>○</p>	<p>①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない</p>
58	<p>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている</p>	<p>○</p>	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどいない</p>

59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない